

令和3年度 瀬戸内市太陽のまち創生有識者会議 意見要旨

日時 令和3年7月27日（火）
午後1時30分～午後3時45分
場所 瀬戸内市役所 2階 大会議室

(1) 第2期瀬戸内市太陽のまち創生総合戦略におけるKPIの状況について 資料1

【委員】

外国人観光客数や市内観光施設観光客入込客数はどのように調べているのか。

【文化観光課】

市内観光施設観光客入込客数は各施設で訪れた方をカウントしており、外国人観光客数についても各施設で外国人観光客の数をカウントしている。また、宿泊施設でも外国人の方が何名宿泊されたかを把握していただいている。

(2) 令和元年度地方創生関連事業の効果検証について

①地方創生推進交付金活用事業 資料2

ア) アートからはじめる歴史と文化を活かしたまちづくり事業

【委員】

プロモーション事業の中でシティプロモーターを配置して税外収入を獲得したとあるが、どのくらいの税外収入があったのか。

【秘書広報課】

プロモーション事業では、瀬戸内市の魅力発信のために情報誌を作成し、ふるさと納税の寄附が1番集まる年末の時期に、前年度の寄附者に対してその情報誌を送付した。その情報誌を送付した人から昨年度は約5,400万円の寄附があった。

【委員】

瀬戸内市の電子商品券「e街ギフト」の運用事業経費はどういうことを行ったのか。

【企画振興課】

地域で使える電子商品券「e街ギフト」は、元々ふるさと納税の返礼品として導入した。今回は他の事業でこの基盤を活用するためのシステムの拡張や、色々な支払方法で寄附できるようにシステムの改修を行った。

【委員】

市の様々な取組を市民に情報発信していくことが必要である。市民が喜ぶことは移住者に対してもポイントになる。HPやSNSでの広報活動に注力することと、そのアクセ

ス状況を定期的にリサーチして、飽きさせないようにコンテンツを更新することが重要である。コロナ禍で首都圏の人が地方移住に興味を持っているので、全国に瀬戸内市の素晴らしさをしっかりと伝えていただきたい。

【委員】

文化・歴史資源の活用事業で文化芸術振興を推進する財団法人の立ち上げについて調査しているが、財団法人の設置については議会で否決されたのではないか。

【文化観光課】

本事業では、財団法人の検討に必要な規模やスケジュール、内容等を報告書として取りまとめた。文化芸術振興の財団法人に限らず、今後瀬戸内市で財団法人を立ち上げる際の基礎資料として活用する。

【委員】

文化・歴史資源の活用事業の文化芸術団体の支援で、質の高い音楽等を提供したとあるが、どのようなことをしたのか。質の高い芸術も良いが、面白いイベントを開催してはどうか。

【文化観光課】

市民の皆さんに優れた芸術文化に触れていただくため、昨年度は太鼓をメインにしたイベントを開催し、地元の太鼓団体とも連携して優れた太鼓文化に触れていただく機会を作った。

【委員】

瀬戸内市ではプロのバレリーナや音楽家などに来ていただきスクールコンサートを行っている。こういった子ども達も市民も楽しめるイベントは是非続けていただきたい。

【委員】

来年度、地元の史跡である伊木家、宇喜多家を整備する事業を実施するとのことだが、あまり学術的にせず、楽しい事業にしていただきたい。子ども達も喜んで楽しめるようなイベントにしていただきたい。

【文化観光課】

この事業は補助事業であり、公募により地域の団体から提案があった内容である。地域にある歴史・文化資源を、地域の方が自分たちの宝であると認識し、守り活用しているという取組を支援する事業であり、子ども達の参加もあった。子ども達に還元できる事業になると考えている。

【委員】

瀬戸内市には文化協会があり、市内には陶芸家、画家、日本画家、音楽家など様々な芸術家がいるが、コロナ禍で大変な苦勞をしている。文化・芸術活動を行っている人への支援も必要ではないか。

【文化観光課】

推進交付金としては実施できないが、引き続きコロナ禍における市民への支援策の中で検討していきたい。

【委員】

KPIの「歴史・文化資源を活用した起業創業者数」は何を想定しているのか。

【文化観光課】

市内には刀匠や寒風須恵器の陶芸家など多くの作家がいる。このKPIはそのような地域独自の歴史・文化資源を活かした作家が新たに起業することを想定した目標となっている。市が把握しているものに限られるが、昨年度は刀匠が1人起業した。

イ) 子どもと過ごす瀬戸内市ライフプロジェクト

【委員】

「こどもひろば」事業についての広報活動をしっかり行うべきである。市の広報紙やSNSなどで強く発信していただきたい。若い人は市の広報紙をあまり見ていないが、折込チラシはよく見ると聞くので、「こどもひろば」について定期的に広報紙に記事を掲載したり、「こどもひろばレター」のようなチラシを折り込むなどの工夫をお願いしたい。

【こども政策課】

今年度は市の広報紙への折込を2回予定している。定期的な発行ができるよう引き続き検討していく。また、飛び出すカードなどを配布するなどのアナログでの発信も続けていきたい。

【秘書広報課】

市の広報紙は限られたページ数の中に、必要な情報を詰め込む必要があるが、多くの方に見ていただけるよう魅力的な紙面づくりに引き続き取り組んでいく。

【委員】

政策の方向性として、常設の公園ではなく、移動遊び場「こどもひろば」を進めている意図は何か。また「こどもひろば推進業務委託」はどこに委託しているのか。

【こども政策課】

子育て世代へのニーズ調査を行った際に、公園などの子どもが安心して遊べる場所を望む声が多かった。ただし、市民全ての家の近くに公園を作ることは不可能であること

から、まずはイベント型の移動遊び場「こどもひろば」を開始した。この取組を継続しつつ、今後は既存の公園を改修・整備をしていく計画もある。事業の委託先は瀬戸内市社会福祉協議会である。

【委員】

プレーカーという車を持っている会社からリースしているのか。

【こども政策課】

プレーカーは瀬戸内市のオリジナルである。軽の商用バンを2台リースして、黄色で全面塗装した。

【委員】

長船の美しい森の遊具が使えなくなっていた。大型のアスレチック遊具は人気があるので、そういった遊ぶ場所の整備と発信をお願いしたい。

②地方創生拠点整備交付金事業 資料3

【委員】

国宝「山鳥毛」を核にした観光振興について記載があるが、瀬戸内海全体でネットワークを作り、観光分野を盛り上げていただきたい。

【委員】

備前刀は日本が誇る素晴らしい文化であり、地域の宝であるため、情報発信を積極的に行い、地域の発展につなげていただきたい。

【委員】

老朽化していた備前長船刀剣博物館が改修されたことにほっとしている。国宝「山鳥毛」も収蔵されたので、備前長船刀剣博物館を市内外へ積極的にアピールしていただきたい。コロナ禍が収束した後にすぐ訪れていただけるよう工夫している点があれば教えていただきたい。

【文化観光課】

「山鳥毛の里づくりプロジェクト」としてTwitterとFacebookを活用した情報発信を行っている。また、企業と連携してアプリで国宝「山鳥毛」デジタルデータを見ることができるようになっている。積極的な情報発信やデジタルデータで興味を持っていただき、コロナ収束後には瀬戸内市に訪れていただけるよう、引き続き取り組んでいく。

③地方創生汚水処理施設整備推進交付金活用事業 資料4

【委員】

海の汚染ではプラスチックごみが一番問題となっている。この対応についても、しっかりと方針を定め取り組んでいただきたい。

【下水道課】

市職員と地域の方による海岸のボランティア清掃を毎年行っている。色々な部署と連携して引き続き取り組んでいきたい。

【企画振興課】

海ごみ問題に対しては、岡山連携中枢都市圏という枠組みにおいて近隣市町と協力して取り組むことも始めている。

【委員】

瀬戸内海は汚水処理が進み、綺麗になりすぎたことにより海苔の養殖などに影響が出ていると聞いている。現在の状況はどうか。

【下水道課】

綺麗になりすぎないように基準値を下げる取組を進めている自治体もある。下水道施設の運転管理を変更する必要があるが、他自治体の事例を参考にして豊かな海を守っていきたい。

【委員】

KPI の「汚水処理人口普及率の向上」について、昨年度の集計に誤りがあったそうだが、どういう経緯だったのか。

【下水道課】

集計の誤りは最近発覚して、現在精査中である。正式な数値が判明次第、昨年度の実績値を修正する。交付金額等への影響はない。

(3) その他

【委員】

「e 街ギフト」について、事業者が困らないよう、事業終了等の広報・周知を徹底していただきたい。

【企画振興課】

「e 街ギフト」を活用した事業は複数あるため、各担当課に広報・周知を徹底するよう依頼する。

【委員】

コンサルタントを多く使っているが、現場の職員が自ら考え進めた方が良いのではないかと。

【企画振興課】

職員だけで解決できる問題ばかりではないため、専門家の意見や技術が必要な場合は、適切に委託先を選定して活用したい。

【委員】

瀬戸内市には産婦人科と児童養護施設が無い。子育て世帯にとって必要な施設であるため、この2施設を是非設置していただきたい。また、困窮しているひとり親家庭への支援もしっかりと行っていただきたい。

【企画振興課】

瀬戸内市では「子育て楽しむならせとうち」をスローガンに子育て世帯への支援を充実させている。今年度からは18歳まで医療費無料とし、市内協力店で育児用品を購入することが出来るチケットを交付する「すくすくチャイルドサポート事業」を開始した。また、ひとり親家庭に対する放課後児童クラブ利用料の助成なども行っている。産婦人科や児童養護施設の設置については、効果などを検証しながら引き続き検討させていただきたい。

【こども政策課】

ひとり親家庭への支援として年に1回の日帰り旅行を行っている。今年度はコロナ禍のため、市内の長船美しい森へ行くことを予定している。

【委員】

瀬戸内市内で出産していただくためにも産婦人科が必要である。産婦人科を誘致できないのであれば、市民病院内に産婦人科を設置していただきたい。このコロナ禍で、市内で診察を受けて、出産できる環境は必要である。市民病院内には小児科ができ、さらには隣接する建物には病児保育ができ、子育て世帯は大変喜んでいて。もう一息、産婦人科の設置を是非お願いしたい。

【委員】

地方創生の中でJR赤穂線の位置づけは非常に重要である。地方創生と鉄道問題は密接に関わって、瀬戸内市の場合はJR赤穂線が存立基盤である。JR赤穂線は昼間が減便になったが、そこを何とかする取組や活かす取組を地方創生の観点で進めていくべきである。

【企画振興課】

JR 赤穂線の減便は、移住・定住等の施策において非常に大きなダメージだと感じている。観光面とも連携しながら、鉄道の利用促進をしっかりと図っていきたい。

【委員】

合計特殊出生率は大きな問題でありながら、なかなか改善していかないところがある。出産時の補助などがあれば支援になるのではないか。また、瀬戸内市には大きな企業があり従業員も大勢いるので、新築補助金など瀬戸内市に住んでもらう施策が強く出せると良い。すでに医療費が 18 歳まで無料であり魅力的な施策が多いので、複合的に案内することでもっと興味を引くと思う。

【企画振興課】

合計特殊出生率の向上や定住人口の増加については、単純な補助金施策だけでなく様々なサービスや取組が考えられるため、多面的なアプローチで検討していきたい。

【委員】

「住み続けたいと思う市民の割合」が平成 30 年度に比べて令和 2 年度が下がっていることが気になる。この数字が下がるということは転出増加につながるため、しっかりと推移をリサーチしていただきたい。

【企画振興課】

隔年で実施している市民まちづくり意識調査の結果に注視して、市民の満足度を向上させ、住み続けたい市民を増やしていきたい。

【委員】

総合戦略の横断的な目標の 1 つが SDGs、もう 1 つが地域コミュニティ活動となっている。コロナ禍で地域活動が非常に難しい状況であるが、地域の子どもから大人までと一緒に地域の課題解決をすることは非常に重要である。引き続き取り組んでいただきたい。また SDGs は市民に伝わりにくい部分があるので、市の政策が SDGs の何に当たるのか分かるようにすることも必要である。

【企画振興課】

市内には素晴らしいコミュニティ活動や市民活動が多くあるので、引き続き支援を行っていくことで地方創生につなげたい。また SDGs については、分かりやすく市民に発信し、総合計画や地方創生と一体的に進めていきたい。

【委員】

市内の若手の経営者の頑張りは、地域において非常に重要なことである。そのような取組を是非応援していただきたい。

【委員】

瀬戸内市には全国的にも誇れるような図書館がある。色々な政策が図書館を舞台につながら、それが瀬戸内市の価値につながるよう情報発信していただきたい。

【委員】

この有識者会議では非常に良い意見が出されている。市の執行部に直に聞いていただき、取組を実行していただきたい。

【企画振興課】

いただいたご意見は、例年通り職員へ共有するとともに、市議会へも報告させていただく。

以上